

大豆（えんれのそら）の栽培基準

月	5月			6月			7月		8月				9月			10月					
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中			
	排水対策・土づくり			播種適期			発芽期		草丈・節数増加期		開花期 英伸長期				子実肥大期			黄葉期		成熟期	

生育のイメージ

3cm

1回目培土
本葉2~3葉期

2回目培土
本葉4~5葉期

初生葉
子葉

開花期

成熟期 10/18頃

刈り遅れの防止

＜多収のポイント＞

- 排水対策で初期生育量を確保する
- 土づくりをする
- 適正栽植本数を確保する
- 2回培土で根量の増加を図る
- 開花期まで根粒菌の増加に努める
- 病害虫防除を徹底する
- 干ばつ時にかん水を実施する

栽培管理

- 排水対策
- 土づくり
- 種子消毒
- 耕起・碎土施肥
- 播種
- 播種時除草剤

7 1回目培土
本葉2~3葉期
(播種後20~25日)に
子葉がかくれる程度まで

8 2回目培土
本葉4~5葉期
(播種後30~35日)に
初生葉がかくれる程度まで

9 生育期除草剤の散布 (発生が見られたら)

8 干ばつ時の畦間かん水
晴天が3日以上続いたら畦間かん水(開花時~9月上旬まで)

9 基本防除1回目
8月初旬~9月上旬
カメムシ類、ハダニ類、ハスモンヨトウ
(発生が見られたら)

9 基本防除2回目
7月下旬~8月上旬 ウコンノメイガ(葉が巻きはじめたら)
7月中旬~8月上旬 葉焼病(発生が見られたら)

10 収穫・乾燥・調製

※排水対策の徹底で根粒菌増加を図る

＜熟色判定の目安＞

黄緑 黄 黄褐 褐色

豆の状態

- 黄色が褐色になれば成熟期
- 株全体の9割以上が褐色になれば収穫可能

大豆「シュウレイ」栽培のポイント

○「シュウレイの特性」

- 1) 早晚生：中の晩
- 2) 成熟期：「えんれのそら」より5~7日程度遅い。
- 3) 主茎長：「えんれのそら」よりやや長いが倒伏は少ない。
- 4) 葉の形：楕型（長葉）
- 5) 収量：最下着英位置が高く、難裂莢性で、収穫ロスが少ない。
3粒莢の割合が多い。収量が安定して高い。
- 6) 品質：大粒比率が高く、百粒重も重い。
「えんれのそら」よりしわ粒の発生が少ない。
- 7) 用途：タンパク質含有率が高く（えんれのそら並み）煮豆や豆腐原料に適する。

○栽培上の注意点

- 1) 裂皮粒がやや多い。
- 2) 色浅未熟粒の発生がみられる。
- 3) 葉焼病の発生がみられる。
- 4) 成熟期の茎の黄色味が残りやすい。

■播種の目安

播種時期	目標栽植本数	播種量の目安
6月上旬	12,000~15,000本/10a	5.1~6.3kg/10a

■施肥、培土

■病害虫防除

■随時防除

■収穫

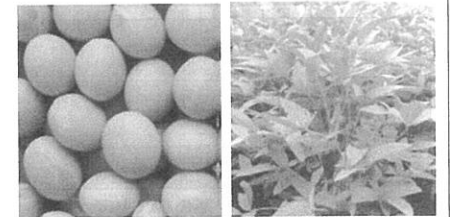
えんれのそらに準じる。

葉焼病
7月中旬~8月上旬

ほとんどの株



裂皮粒 色浅未熟粒 葉焼病



・葉の形は楕型

えんれのそらに準じる。

防除時期(発生初期)	薬剤名	散布量(10a当たり)
7月中旬~8月上旬	Zボルドー	500倍 150ℓ(薬剤300g+水)

莢が褐色、子実水分20%程度から刈取りを開始する。

- ・「えんれのそら」に比べ大粒比率は高い
- ・百粒重は重い
- ・しわ粒の発生は少ない

大豆共乾施設での受入は不可！ (自己乾燥調製のみ可)